

明日の行政を担う方々へ

2009. 9. 9

望月 晴文

1. 職業選択にあたって

公というもの

国の豊かさで国民の幸せ

通産省——産業振興と公害

2. 行政官としての初期体験

・駆け出しの頃

突然の石油危機

——危機管理における政治と行政の役割

(第一次、第二次)

——今日につながる変化の始まり

(サンシャイン、ムーンライト計画)

商法特例法の話

——常識のすべてを疑うことの大切さ

・小さな集団の管理職の頃

伸びゆく産業の将来を構想する

——テレビ、ITの知財戦略

資源確保に奔走する——サハリン開発

3. 日本という国のかたち——経済の視点で

無資源国日本

——資源確保戦略、ソフトパワー、人材と技術

中小企業の計り知れない重要性

——雇用と社会の安定、

活力あるベンチャーの意義

4. これからの行政官

それぞれの政策のプロとして自らを磨け

——知識、経験、熱意

課題に対し正解を求めるな

——今なすべきことは何か、

行政の課題に絶対的真理はない

迷ったら動く——行政が動けば、社会が動く。

修正する勇気があればいい。

民意に対する謙虚さと自らの確信との調和

——情報の非対称、透明性

5. 政と官

役割分担——政策の選択肢の提供と決断する責任